



クラシックって楽しいな!

(名曲にまつわるエトセトラ)

クラシックの名曲には様々な誕生秘話があるんじゃ。
そういった背景を知って曲を聴くと、
もっとクラシック音楽を楽しむことができるんじゃ!



 公益社団法人国際音楽交流協会

〒602-0894 京都市上京区上御霊仲町 457-10
TEL : 075-414-1311 URL : <http://www.imea.or.jp>

このパンフレットは、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



生活の様々なシーンで クラシック音楽の名曲が使われているんです!

スポーツの競技中に使われた名曲



浅田真央(フィギアスケート)

プッチーニ／「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番より 第1楽章
ショパン／ノクターン 変ホ長調 作品9-2
ショパン／12の練習曲 作品10-3「別れの曲」
ショパン／バラード 第1番 ト短調 作品23
パガニーニ／24の奇想曲より 第24番

羽生結弦(フィギアスケート)

ショパン／バラード 第1番 ト短調 作品23
スクリャービン／練習曲 第12番 嬰ニ短調「悲愴」
サラサーテ／チゴイネルワイゼン

乾友紀子・小林千紗(シンクロナイズドスイミング)

モーツァルト／「魔笛」より「夜の女王のアリア」



コマーシャルで使われた名曲

チャイコフスキー／組曲「くるみ割り人形」から第4曲 トレパーク(トヨタ自動車・ガイア)

ホルスト／組曲「惑星」より「木星」(武田薬品工業・アリナミンシリーズ60周年)

ピアソラ／リベルタンゴ(サントリー・ローヤル12年)

エリガー／愛の挨拶(大阪ガス・エネファーム)

ショパン／ノクターン 第20番 嬰ハ短調「遺作」(パナソニック・ビエラ)

メンデルスゾーン／結婚行進曲(リクルート・ゼクシイ)

オッフェンバック／喜歌劇「天国と地獄」序曲(文明堂・カステラ)

プロコフィエフ／「ロメオとジュリエット」より「モンタギュー家とキャピレット家」(ソフトバンク)

ショパン／24のプレリュード 第7番イ長調 作品28-7(太田胃酸・太田胃酸)



結婚式でよく使われる名曲

パッヘルベル／カノン

エルガー／愛の挨拶

メンデルスゾーン／結婚行進曲

バッハ／カンタータ147番より「主よ人の望みよ喜びよ」

チャイコフスキー／バレエ組曲「くるみ割り人形」より「花のワルツ」



こんなところにも
クラシックの名曲が
使われてるんじゃない!



運動会でよく使われる名曲



カバレフスキー／組曲「道化師」第2曲 ギャロップ
オッフェンバック／喜歌劇「天国と地獄」序曲
ロッシーニ／歌劇「ウィリアム・テル」序曲
ビゼー／歌劇「カルメン」前奏曲



テレビドラマで使われた名曲

ショパン／12の練習曲 作品10-3「別れの曲」(101回目のプロポーズ)

ショパン／ポロネーズ第6番変イ長調作品53(ロングバケーション)

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92 第1楽章(のだめカンタービレ)

シューベルト／アヴェ・マリア(カルテット)

ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 第4楽章『革命』(カインとアベル)

ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調『新世界より』第4楽章(怪盗 山猫)

ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調『新世界より』第2楽章「家路」(男はつらいよ)



映画で使われた名曲

モーツァルト／交響曲 第25番 ト短調 第1楽章(アマデウス)

ワーグナー／楽劇『ニーベルングの指環』より「ワルキューレの騎行」(地獄の黙示録)

エルガー／威風堂々(ファンタジア2000)

ヨハンシュトラウス2世／美しく青きドナウ(タイタニック)

ベートーヴェン／交響曲第9番(ダイハード)

ショパン／アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22(戦場のピアニスト)

プッチーニ／「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」(テルマエ・ロマエ)

チャイコフスキー／大序曲『1812年』(のだめカンタービレ)



アレンジされてポピュラー音楽になった名曲(原曲)

SWEETBOX／Everything's gonna be alright(バッハ／G線上のアリア)

ETERNITY／I will(ヴィバルディ／四季より「春」)

Lutricia Mcneal／Rise(パッヘルベル／カノン)

Nas／I can(ベートーヴェン／エリーゼのために)

平原綾香／Jupiter(ホルスト／組曲「惑星」より「木星」)

a+／Enjoy yourself(ベートーヴェン／交響曲 第5番「運命」第1楽章)

Emerson, Lake & Palmer／Picture at an exhibition(ムソルグスキー／組曲「展覧会の絵」からプロムナード)

Jane Birkin／Baby alone in Babylon(ブラームス／交響曲第3番 第3楽章)

嘉門達夫／鼻から牛乳(バッハ／トッカータとフーガ ニ短調)

薬師丸ひろ子／A lover's concert(バッハ／メヌエット ト長調)

UFEAチャンピオンズリーグ(サッカー)のテーマ曲(ヘンデル／司祭ザドク)



ヴェルディ(1678-1741)

オペラ『アイーダ』より凱旋行進曲

サッカーの応援歌としてもよく知られている。58歳のまさに円熟期に書かれた作品。ファラオ時代のエジプトとエチオピアのふたつの国に引き裂かれた男女の悲恋を描いたオペラ。ラメスが戦争に勝ってエジプトに凱旋するシーンは、大がかりなセットで豪華絢爛なステージ。バレエ・合唱なども含めると登場人数は数百人に上る事もある壮大なオペラである。一方で、舞台の豪華さとは対照的に、特にアイーダとラメダスの二重唱やラストシーンなど、静かで繊細な心の表現力や人間関係のぶつかり合いが描かれている。オペラの中でも最も人気のある作品の一つ。オーケストラでは「アイーダ・トランペット」という管の長い独自のトランペットが使われることもある。



ヨハンシュトラウス1世(1804-1849)

ラデツキー行進曲

ウィーン革命まっただ中、44才の時に作曲された。ラデツキーとは革命に活躍した将軍の名前。彼の凱旋祝賀会を盛り上げるための行進曲。オーストリアの国家的な行事や式典でたびたび演奏される。



ヨハンシュトラウス2世(1825-1899)

美しく青きドナウ

オーストリアの第2の国歌とも呼ばれている。もともとは合唱曲だったが、オーケストラ用にアレンジされた事で大ヒットした作品。プロイセンとの戦争に負け、落ち込んでいたオーストリア国民を元気付けるために作られた。「ユカイな歌を歌って現実を忘れよう」といった内容の歌詞。暗い雰囲気を盛り上げるために作曲された男声合唱付きのワルツ。



プッチーニ(1858-1924)

オペラ『蝶々夫人』より「ある晴れた日に」

プッチーニは世界各国の都市を舞台としたオペラを数多く残している。その一つが日本の長崎を舞台にしたこの作品。彼は「和のテイスト」を持つ異色作である本作品の制作にあたり、日本の民謡や風俗習慣、宗教的儀式等に関する研究を熱心に行った。舞台は1900年頃、明治時代の長崎。武士の娘として生まれた蝶々さんは父の切腹によって没落士族となり芸者になった。15歳でアメリカ海軍士官のピンカートンと出会った彼女は、大恋愛の末、親族の反対を押し切ってキリスト教に改宗し結婚した。ところが、ピンカートンにとって蝶々さんは、あくまで日本滞在中の現地妻であった。当時は滞在先の各国で常に女性をそばに置いておく事がステータスであるという風潮があった。ピンカートンとの間の子を妊娠していた蝶々さんは、「コマドリが巣を作る頃には帰ってくる」と言う夫の言葉を信じ、自国へ戻ったピンカートンを3年待ち続けた。しかし、再び長崎に戻ってきた彼はアメリカ人の妻（ケイト）を伴っていた。ケイトは蝶々さんに子どもを引き取って養うと申し出た。しかし、肝心のピンカートンは蝶々さんの一途な想いに恐怖し顔を出さなかった。蝶々さんは、ピンカートンが直々に息子を迎えるに来るなら渡してもいいと気丈に対応した。しかし、彼女は『誉れに生きる能（あた）わずば、誉れに死せよ…』（名誉を持って生きる事が出来なければ、名誉を守るために死ぬ）と、父の形見であった短刀で自害した。ピンカートンが駆けつけたが既に時遅し、蝶々さんはピンカートンの腕の中で息を引き取る。ちなみに、「ある晴れた日に」は、寂しさに耐えながら、ピンカートンが戻ってくることを健気に待っているシーンで歌われる曲である。

オペラ『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」

2006年、トリノオリンピックのフィギュアスケートで、荒川静香が金メダル獲得時の演技で使用した事により日本国内で一気に有名になった。古代中国の北京を舞台としている。オペラの最終幕で、古代中国皇帝の娘トゥーランドット姫への求婚者に出される3つの難題をダッタン国王の息子カラフ王子が見事クリア。しかし姫は心を固く閉ざしカラフとの結婚を受け入れようとしない。そこでカラフは自分の名前を夜明けまでに当ててみせれば命を捧げようと申し出る。そして、それが出来なければ自分との結婚を承諾しなければならない、と逆に姫に迫った。そこで冷酷な姫は国民に対し、カラフの謎を解き明かすまでは誰も寝てはならないというお触れをだす。もし誰も解き明かせなかったら、国民を皆殺しにするという。トゥーランドット姫のお触れを聞き、そこでカラフが歌うアリア。

ホルスト(1874-1934)

組曲「惑星」

占星術に傾倒していたホルストは、そこで描かれていた各惑星の性格に強く惹かれ、それを音で表現してみようと考えた。初演された1920年当初の知名度は低かったが、40年程たってカラヤンがウィーン・フィルの演奏会で紹介した事により一躍有名になった。ちなみに、最も良く知られる「木星」は、しばしば演奏会で単独で取り上げられる。また、平原綾香が『ジュピター』というアレンジ曲を大ヒットさせた。



火星は戦争をもたらす者
金星は平和をもたらす者
水星は翼のある使者
木星は快楽をもたらす者
土星は老いをもたらす者
天王星は魔術師
海王星は神秘主義者

チャイコフスキー(1840-1893)

ピアノ協奏曲第1番

親友でモスクワ音楽院の創設者ニコライ・ルビンシュタインに献呈しようと、チャイコフスキー34歳の時に作曲され、草稿の段階でニコライにアドバイスを求めたが、思いがけず酷評を受け、プライドをひどく傷つけられたという。しかしドイツのピアニスト、ハンス・フォンビューローに初演を依頼したところ、アメリカでの演奏旅行で初演され大成功をおさめ、その後次第に各地で高評価を得ていった。結局、この曲はハンス・フォン・ビューローに献呈される事となった。

交響曲第6番『悲愴』

初演はサンクトペテルブルグ。翌日訪ねてきた弟によってつけられた標題で、チャイコフスキーはそれからわずか7日後に突然の死をとげた。交響曲の第四楽章は通常、快速で輝かしいイメージだが、全く正反対で穏やかな速度でありながら暗くいつ終わったのかわからないほど消え入るように終わる。同じ悲愴でもベートーヴェンのソナタ「悲愴」のきっぱりと決心したような雰囲気とは対照的である。本当に落ち込んでいるときは聴かない方がよいとも言われるほど、絶望感がじわじわと湧き出てくるような重々しい作品。生涯を通じてチャイコフスキーは死を異常なほど恐れていた。この作品で死と向きあい、静かに受け入れる事でその恐怖を克服したのではないかと言われている。

大序曲『1812年』

のためカンタービレ（映画版）でも紹介された。1812年はナポレオンがロシアに攻め入った年。ロシア軍がナポレオン率いるフランス軍を撃退した様子が描かれている。ロシアでは「祖国戦争」と呼ばれ、ロシアにとってはフランスに勝利した歴史的な出来事である。ロシア聖歌やロシア民謡と併せて「ラ・マルセイエーズ」（フランス国歌）のテーマも取り入れられている。原曲では大砲の使用が明記されているが通常ホールではバスドラム等で代用される。自衛隊の演奏会では大砲を使って演奏されることもある。



メンデルスゾーン(1809-1847)

結婚行進曲

結婚式の定番曲で新郎新婦入場シーン等に良く使われる。シェークスピアの喜劇「夏の夜の夢」の付随音楽中的一曲。彼が17歳の時に作曲したもので、物語の内容もハッピーエンドとなっており結婚式にはもってこいの作品である。ヨーロッパでは夏至の前の晩に妖精たちが飛び回り素敵な出来事が起こると言い伝えられ、この時期に愛する男女が幸せな結婚を願う風習がある。



ワーグナー(1813-1883)

結婚行進曲

オペラ「ローエングリン」の第3幕中の1曲。メンデルスゾーンの結婚行進曲と比べると少し落ち着いた雰囲気となっている。尚、ワーグナーの結婚行進曲はメンデルスゾーンのものと対照的にオペラの内容が悲劇的なものであるため、ヨーロッパでは結婚式の音楽としてはあまりふさわしくないとされる。劇中では、結婚した二人は結婚初夜に破綻し、しかも花嫁は夫の秘密を知ったショックのあまり死んでしまう。

楽劇『ニーベルングの指環』より「ワルキューレの騎行」

このオペラは神話を題材にしたもので15時間にも及ぶ大作。序夜「ラインの黄金」、第一夜「ワルキューレ」、第2夜「ジークフリート」、第3夜「神々の黄昏」の4部作となっており、上演には少なくとも4日間を要すると言われている。神々、人間、巨人族、小人族が登場し、親子愛や兄妹愛等、様々な形の愛が描かれる。ワルキューレとは天馬に乗って槍と盾を持って戦場を駆け巡る9人の乙女たちの事で、彼女たちは戦死した英雄を馬に乗せてヴァルハラ城へ連れてくる役目を負っている。映画「地獄の黙示録」ではヘリコプターによる村の襲撃場面で効果的に使用された。

楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』前奏曲より

ワーグナーの楽劇の中で唯一喜劇的なものとなっている。マイスタージンガーとは、「歌える親方」という意味。16世紀中頃のドイツでは、靴屋、毛皮屋などの職人たちは、それぞれの職種で研鑽を積み試験に合格する事でやっと一人前の親方として認められていた。そして職人の親方でありながら歌手としての実力も兼ね備えた者に与えられた称号が「マイスタージンガー」であった。そんな時代背景をもとに作られた話で、登場人物の多くは一般庶民であり、明るく活力に満ち溢れた人間ドラマが繰り広げられる。熱狂的なワーグナーファンであったヒトラーが最も好んだ曲としても知られている。彼は自分の誕生日にフルトヴェングラーに依頼して演奏させ、また党大会でもよく使うほどワーグナーの楽曲を愛した。

私の選んだ名曲！



ナターリャ・スクリャービナ
オペラ歌手（ソプラノ）
グネーシン劇場オペラスタジオソリスト
ミュージック・ウィズアウト・リミッツ優勝

クラシックには数え切れないほどの名曲があります。その中から一つを選ぶのは簡単ではありませんが、敢えて選ぶなら私はプッチーニの「蝶々夫人」から「ある晴れた日」を選びます。プッチーニの作品に出てくるアリアはとてもバラエティにとんだテンポで構成されています。これがプッチーニのオペラが美しいと言われる理由の一つです。私は20歳の時に初めてこのオペラに取り組みました。このオペラの台本はまるで恋愛小説のようでした。私は、蝶々さんの内

面に強く惹かれました。彼女はとても勇敢で気高い女性であり、私自身とても勇気付けられたような気がしました。いつ帰ってくるかわからない人を一途な気持ちで待ち続けるという深い愛はとても素晴らしいものだと思います。蝶々さんは日本人女性がモデルとなっているので、日本の女性はこういった深い愛情を持っているのだと思いますが、この感性は私達ロシア女性にとっても良く理解できるものです。ロシア人と日本人はきっと心の深い部分でつながっているに違いありません!

ベートーヴェン(1770-1827)

交響曲第3番「英雄」

共和制を目指すナポレオンを尊敬し、彼のために捧げようとして書いた作品。しかしナポレオンが皇帝となったと知ったベートーヴェンは「あいつも世俗の人間だったのか」と「一人の英雄の思い出のために」と書き換えて発表した。



交響曲第9番

聴力を失ってからの作曲。初演は彼自身が指揮した。演奏が大成功のうちに終わり会場は拍手の渦に飲み込まれた。しかし拍手が聞こえず、彼は聴衆に背を向けたまま立ち尽くしていた。アルトの独唱者に導かれようやく客席へ向き、聴衆の反応を目で見ても彼は演奏の成功を初めて知った。彼の耳が聞こえていない事に気づいた会場は賞賛と同時に悲しみの嵐に包まれた。作曲家でありながら、耳が聞こえなくなったその皮肉な運命に誰もが涙せずにはいられなかった。

『わらの女』（1964年）、『ダイ・ハード』（1988年）、『いまを生きる』（1989年）など、数多くの映画で喜びを表現する場面で使われている。邦画では黒澤明監督の『赤ひげ』（1965年）等で使用された。

ピアノソナタ第14番「月光」

ベートーヴェンの教え子で貴族令嬢ジュリエッタ・グイチャルディに捧げられた曲。身分違いのため失恋に終わってしまう。『月光』の名は幻想的で静かな曲調から、後に音楽評論家がつけたものである。



ショパン(1810-1849)

12の練習曲作品10-12「革命」

ショパンが演奏旅行でポーランドを離れた際、ロシア帝国からの独立を目指した革命が失敗し故郷のワルシャワが陥落してしまう。多くのポーランド人がこの反乱に参加したが、体が弱くて参加できなかったショパンはこの怒りの感情を音楽で表現しようとして本作を作曲した。

この曲は友人のリストに献呈されたが、「革命」というタイトルはリストが命名したもの。ちなみにリストは超絶的な技巧を持つ最高のピアニストとして当時知られていた。初見でも弾けない曲はなかったというが、そのリストでさえこの曲は弾けなかった。失望と怒りを表した、ショパンの激しい感情が感じ取れる作品。



12の練習曲作品10-3「別れの曲」

練習曲としてリストに捧げられたピアノの「12の練習曲集」より。エチュード（練習曲）といえど、ロマン性の高い芸術作品となっており、ショパン自身『これほど美しい曲を今まで書いた事がない』と語ったほど自信にあふれた作品。ショパン 22歳の時の作品で、ポーランドを離れパリデビューを果たし、新天地での成功を目指していた時の作品。新天地での成功にかける思いと、ふと故郷を思い、懐かしく思う気持ちが混じり合った中で作曲されたと言われている。

「別れの曲」とはショパンがつけた題名ではなく、ショパンの伝記映画『別れの曲』で主題歌として使われた事がきっかけとなり、この名前で親しまれるようになった。しかしこう呼ばれているのも日本だけで、欧米では『悲しみ』や「おお、祖国よ」というタイトルで知られている。

ポロネーズ第6番変イ長調作品53

「英雄ポロネーズ」という呼称で広く知られている。「ポロネーズ」というのはショパンの祖国ポーランドの貴族の間に伝わる民族舞踊で、堂々として力強く、また独特のリズムが特徴である。同じくポーランドの代表的な民族舞踊に「マズルカ」があるが、こちらは農民の間で伝えられてきたものである。

ワルツ第9番変イ長調作品69-1「別れのワルツ」

ショパンがマリア・ヴォジンスカに贈った曲。ショパンは静養先のドレスデンで、ポーランド革命の難を逃れて一家で滞在していたマリアと出会った。この曲はショパンが、パリに戻るときに贈った曲で、マリアとはその後も文通を続け、一時は婚約を交わすに至ったが、彼女の両親から突然婚約破棄の手紙を受け取り、結局二人は結ばれなかった。こういった理由により「別れのワルツ」という名前がついた。マリアは生涯独身を通したショパンが、唯一結婚を約束した女性だった。

幻想即興曲

実は、ショパン自身はこの曲をあまり気に入っていなかったようで、遺言にはこの曲を燃やして欲しいとの記載があったほど。しかし、彼の死後、友人のユリアン・フォンタナがその遺志に逆らって出版したため、後世に残される事となった。ショパンの自筆譜には即興曲とだけ書かれていたが、出版時にフォンタナが「幻想」というタイトルを付け加えた。

私の選んだ名曲！



アンドレイ・バスキン
ヴァイオリニスト
モスクワ・ソリスツ所属

19世紀最高のヴァイオリニストと言われたニコロ・パガニーニはヴァイオリニストとしての技術の限界に挑み続けました。彼は多くの作品を世に出しましたが、最も有名なものは24の奇想曲です。彼はこの曲を最も偉大な芸術家のために作曲したとのことですが、この時代にパガニーニ以外で誰もこの曲を演奏することが出来ませんでした。この中で、最も有名で、難易度が高いと言われている第24番は様々な技巧を駆使しなければ演奏できません。彼は、自分の作曲した曲を通じて人々にメッセージを送り続けました。「自分以外に私の作品を演奏できる者はいない」と、パガニーニの出現以降、ヴァイオリンの教育現場は大きく変革しました。

皆、パガニーニのようになりたかったからです。

20世紀に入ると多くの優秀なヴァイオリニストたちがパガニーニの作品を演奏するようになりました。今日でも、24の奇想曲が難曲であることにあること変わりありませんが、優秀であれば学生でも演奏することが可能です。

20世紀を代表するヴァイオリニストであったナタン・ミルシテインはパガニーニの代表作である24の奇想曲第24番に編曲をほどこし「パガニーニアーナ」を世に出しました。そしてこの曲を通じて新しいメッセージを発出しました。「望むなら、誰でもパガニーニのようになれる!」。

私が「パガニーニアーナ」を選ぶ理由は、この曲の持つ美しいイタリア的なテーマ、キラキラと輝くような旋律に惹かれたからです。そして私は、ミルシテインのメッセージにもあるように、「パガニーニのようになりたい!」からこの曲を演奏するのです。

シューベルト(1797-1828)

交響曲第8番『未完成』

シューベルトの没後40年経ってようやく第3者によって発見された作品。

通常交響曲は4つの楽章で構成されるが、ヒュッテン・ブレンナーに贈られたこの交響曲は二楽章までしか無かった。理由については諸説あるが、二楽章までで既に完璧な作品となったため、それ以上の楽章を作る事が出来なかったのではないかと言われている。



野ばら

31年という短い生涯の中で600曲以上の歌曲を作曲し、「ドイツ歌曲の王」と呼ばれるシューベルトの18歳の時の作品。

ゲーテの詩である「野ばら」につけられた作品で、他にもベートーヴェン、シューマン、ブラームスをはじめ多くの作曲家がこの詩に曲をつけている。ゲーテは21歳の学生の時にある牧師の娘に一目惚れした。二人は恋に落ちるが、大学を卒業する頃にはゲーテは彼女の下を去ってしまう。その後その娘は生涯独身を通したが、「野に清らかに咲くバラが無情にも折られてしまう」というこの詩は、恋人を裏切り美しい心を深く傷つけてしまった自責の念が込められた詩と言われている。

ちなみに、シューベルトがつけた曲は詩の内容とは対照的に、かわいらしく、親しみやすいメロディーとなっている。	
(日本語版歌詞)	童は見たり野なかの薔薇
	清らに咲けるその色愛でつ
	越かずながむ紅におう野なかの薔薇
	手折りて住かん野なかの薔薇
	手折らば手折れ思出ぐさに
	君を刺さん
	紅におう野なかの薔薇
	童は折りぬ野なかの薔薇
	手折りてあわれ清らの色香
	永久にあせぬ
	紅におう野なかの薔薇
(ドイツ語原曲意訳)	少年が見つけた小さな野ばらはとても若々しく美しかった
	少年は近くで見ようと走り喜びに溢れて跳めた
	バラよ赤いバラよ野中のバラ
	少年は言った「バラよ、君を折るよ」
	野ばらは言った「ならば貴方を刺すわよ、いつまでも私を忘れないように。
	それに、私は折られるなんて嫌だわ」
	バラよ赤いバラよ野なかのバラ
	少年は野ばらを折った、
	野ばらは抵抗して彼を刺した、痛みや嘆きのかいもなく
	野ばらはただ耐えるしかなかった
	バラよ赤いバラよ野中のバラ

モーツァルト(1756-1791)

交響曲第40番ト短調

モーツァルトは生涯で41もの交響曲を作曲したが、短調の作品は2つだけで、しかもどちらもト短調であった。本作は晩年の作品であるが、第39番、第41番と並んでモーツァルト3大交響曲と呼ばれ、交響曲の典型と言われている。本作が作曲された頃は、父レオポルトに続き長女を亡くすなど不幸が立て続けに起き、また一方では次第に人気が落ち始め、知人に多額の借金をする等、モーツァルトにとって苦難の時期であった。困窮を抜け出すために、予約演奏会（会費前払い制）を計画し、そのためにわずか2ヶ月ほどで3つの交響曲を書き上げたと言われている。モーツァルトの天才ぶりを表しているエピソードである。



ドヴォルザーク(1841-1904)

交響曲 第9番 ホ短調『新世界より』

チェコ出身で熱狂的な鉄道ファンであったドヴォルザークは、機関車を眺めるのが何よりも楽しみであった。時間があれば、プラハの中央駅で機関車を眺め、機関士と話すのをとても楽しみにしていた。1891年、ニューヨークのナショナル音楽院に招聘されアメリカへ渡る。渡米後はインディアンや黒人の民族音楽に興味を示し、これらを吸収することにより自らの表現の幅を広げていった。「新世界」はドヴォルザーク自身、友人に宛てた手紙の中で「この作品はこれまでのものと違いアメリカ風だ」と語っていたほど斬新なアイデアに満ちていた。第二楽章「家路」の旋律は下校時や夕方の公園で流されているのを聞いた事がある人も多い筈。

ブラームス(1833-1897)

交響曲第1番

作品を完成させるにあたり、21年もの歳月を費やしたと言われる大作。敬愛してやまなかったベートーヴェンの9つの交響曲を意識しすぎるあまり、何度も慎重に構想を練りなおした結果、完成までに長い年月がかかった。その間、いくつか書いた旋律はピアノ協奏曲第1番やドイツ・レクイエムに転用された。本作は、ベートーヴェンを継承する名作として「ベートーヴェンの第10交響曲」と絶賛された。



エルガー(1857-1934)

愛のあいさつ

威風堂々やエニグマ変奏曲なども有名なイギリスの作曲家。当時まだ無名だった彼が、婚約者に贈った作品。彼女は彼の生徒の一人でエルガーよりも8才年上であった。身分の違い、宗教の違いから周りの反対を押し切っての結婚であったため、親のサポートを受けることができず二人は貧しかった。しかし、彼女は社会的、音楽的に彼のその後の作曲活動を献身的に支え続けた。



「恋愛」が
テーマの名曲は
ピンクのが
目印じゃ!



個人賛助会員のごあんない

気軽に一流のクラシック音楽に触れる機会を、日本の隅々にまで提供することを目的に、当協会では1992年から2016年までの25年間で、北海道から沖縄県に至るまで44都道府県111市区町村において302回のコンサートを開催して参りました。全てのコンサートは、日本政府関係各省庁や開催各地の地方公共団体をはじめ、各種団体、民間企業のご支援等により、入場無料として開催することができました。コンサートに参加された国民の皆様からは、「とても良いコンサートであった」と高い評価を頂いております。また、当協会は平成26年10月に公益社団法人の認定を受け、より活発な活動を目指しているところです。公益法人制度改革を経て、より一層の法人自立が求められている中、この素晴らしい事業の永遠の存続と更なる発展を期して、一人でも多くの国民の皆様方へ、個人賛助会員へのご入会を通じて、当協会の活動をご支援頂きたいお願い申し上げます。

【個人賛助会員に関する詳しいお報せはコチラ】⇒ <http://www.imea.or.jp/web/support>

クラシックって楽しいな！

(作曲家にまつわるエトセトラ)
制作：公益社団法人国際音楽交流協会
東北福祉大学／株式会社大原の里
ダイキン工業株式会社／本願寺
影近設備工業株式会社／大阪ガス株式会社
井村屋グループ株式会社
助成：一般財団法人日本宝くじ協会
協力：株式会社コスモ・アーツアンドテクニクス
挿絵：指宿京
発行：2017年9月

宝くじは、

みんなの暮らしに

役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、
学校や公園の整備をはじめ、
災害に強い街づくりまで、
みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
<http://jla-takarakuji.or.jp/>

